

# NAP

## NUAPRESS 2024 no.31

## “未完な道行き”

## 吉本 作次さん

11期 美術学部絵画科洋画専攻

2024年春、名古屋市美術館にて『特別展 吉本作次 絵画の道行き』が開催されました。これまでの作品を一挙に展覧できる、大規模な企画を終えた吉本さんに、画家としてのこれまでを振り返りながら、お話を伺います。

一名古屋市美での展覧会、盛況でしたね

一番嬉しかったのはリピーターが多かった事。一般の方々も沢山来てくれて。あまり大きく広報されなかったから本当にSNSに助けられました。怖くてエゴサーチできないけど、彼女(奥様の11期美術学部絵画科洋画専攻:向井明里さん)に「褒めたやつだけ見せて」ってお願いしました(笑)。

一構成も素晴らしかったです

学芸員の竹葉丈さんから引退前の最後に何か展覧会をしたいとなった時に、「国立国際美術館の展示で見た《Offering(献納)》(1987年制作、油彩・キャンヴァス)が忘れられなくて、ぜひ展覧会をしたいんだ」って。まあそこから大変で。

1階に展示したかなりの作品含めて、かつてお世話になったギャラリーの倉庫にある「かも」しれない状態で、出品作を決める時に作品が返って来たらできるバージョン/来ないバージョンと2ウェイで考えていたけど、無事に全部出てきて。



名古屋美術館の会場風景。正面性を意識した展示。  
上＝1階の『1章 1980年代』と題されたフロア  
左＝地下フロアにドローイング群とともに展示された  
《Offering(献納)》1987年  
油彩・キャンヴァス 306.0×630.0cm

作家「吉本作次」以前

僕は二浪中に、ギャラリーのオープニングパーティを周ったり非常に楽しい浪人生活でした(笑)。その後、名芸に入学するも嫌すぎて孤立していたから、しばらくは友達も無く。モノ派の、ちょっとドリルをやろうと思って石を並べたり、そこに筆ったクローバーを積んでみせて、友達に「賽の河原か」って言われたり。



1984年。個展のための作品を大学アトリエにて制作中の吉本。

ガロ読んで現代美術に目覚めた予備校時代に、確か李禹煥(リ・ウファン)の『出会いを求めて』という本を読んで「現代美術いいな」って。今思うとあれだけど、当時は現代美術はより優れていてより前衛で、よりインターナショナルに感じて…「超難しい!」って思いながら藤枝晃雄さんや峯村敏明さんの批評を読みました。

画塾でも好きなように描いていて、良い絵を描きゃ通るとホントに素朴に思ってた。名芸落ちた時は発表の後に電話があって「今すぐ決定するなら補欠で取る」と言われて「はあ?舐めてんじゃねえ!」と。すると母親が「入れて頂きなさい」と。英断でしたね。うちの母親はこ一番に一番正しい判断をするんです。なのであの、凄く自分はもう名芸愛に満ちていますので…ここ強調しておいて下さい(笑)。



### ●YouTubeチャンネルにて公開中

昨年行われた第36回総会・懇親会のダイジェスト版や卒業制作展での同窓会賞受賞者インタビューなどをアップしています。ぜひご覧ください!

### YouTubeの検索キーワード

『名芸大美術・デザイン同窓会ページ』

QRコードはこちら

スマートフォンの  
カメラ機能で読み取り  
アクセスしてください



### ●第51回卒業制作展 企業賞[同窓会賞]

第51回名古屋芸術大学卒業・修了制作展(2024.2.16～25)にて、企業賞として同窓会賞(学部生対象)を2名に授与しました。美術領域の受賞者は松岡七海さん[芸術学部芸術学科美術領域アートクリエイター(コミュニケーションアートコース)]の《ニッチな傷の舐め合い》、デザイン領域・受賞者は守屋龍成さん[芸術学部芸術学科デザイン領域インダストリアル&セラミックデザインコース]の《【バトルホビー】インセクトキメラ》となりました。

受賞後のお二人に、作品について、また制作の苦労や思いを語っていただいたインタビュー映像が同窓会のYouTubeチャンネルにございます。それぞれの個性を感じられるインタビューになっています。ぜひご覧下さい。

松岡七海さん、守屋龍成さん、受賞おめでとうございました!

◎場所 名古屋芸術大学 西キャンパス  
〒481-8535  
愛知県北名古屋市徳重西沼65  
Tel&Fax:0568-25-4190

◎日時 2024年11月23日(土)

◎総会 11:30よりB棟大講義室にて／受付は12:00～／総会終了後、懇親会を行います。会費は無料。※大学駐車場は無料。

(詳細は別紙をご参照下さい)

※ご案内が届いていらっしゃる同窓生をご存知でしたら、お誘いの上、会場へ直接お越しください。受付にて、同窓会登録有無確認後ご参加いただけます。また会への入会(会費有)も受け付けております。不明な点は、事前にお問い合わせください。

### ●会費未納の方へ:

#### 会報誌や総会懇親会案内の発送停止

会費を未納の方への会報誌や総会案内の発送を、昨年より順次停止いたしております。送料の価格変更、また同窓生増加といった厳しい状況を踏まえ、大変心苦しい限りですが、このような判断となりました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。また引き続きホームページ・FaceBookでは、同窓会からのお知らせ、デジタル会報誌等をアップしておりますので、ぜひご利用ください。

※現在37期生以降の納入状況が確認できております。まだ会費を納めて頂いていない方で納付希望の方には振込用紙をお送りさせていただきます。同窓会事務局(nua.ad.aa@gmail.com)までお申し付けください。



卒展会場・展示作品の前で記念撮影。上が松岡さん、下・守屋さん。

## 第37回同窓会総会・懇親会 開催のお知らせ[11月23日(土)]

今年度第37回同窓会総会を名古屋芸術大学西キャンパスにて開催いたします。

総会では昨年度の活動報告、これからの活動予定、予算の収支報告といった、会員の皆様にとって大事な内容を議事運営しております。どうぞ総会からご参加くださいますよう、お願い申し上げます。  
総会後に行なわれます懇親会につきましては、会費無料(ご家族の方含む)でございます。この会報誌と合わせて同封いたしましたハガキより出欠席をお知らせ下さい。役員一同皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

## 事務局よりお知らせ

### ●「同窓会名簿 確認用ハガキ」について

51期卒の皆さまへ(2023年9月卒と2024年3月卒の方)

「同窓会名簿 確認用ハガキ」をこの会報誌とは別便で発送しています。

大学より提供を受けたみなさんの卒業時のデータが掲載されていますので、ご確認の上、変更がある場合はご記入頂き同封の個人情報保護シールを貼り12月31日までに返送をお願いいたします。卒業後のみなさんの個人データ取扱に関する、大事な確認になります。必ず開封してご確認ください! ※ご返送がない場合、卒業時のデータがそのまま登録されます。

以下のように印字された封筒が  
皆さまのお手元に届きます  
↓↓↓

《重要》この手紙は名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会が  
同窓会名簿を作成する為にお送りしています。必ず開封し、  
内容をご確認ください。  
●ご本人が不在の場合は、ご本人に転送いただくか、ご本人に承諾の上、  
ご家族の方よりご返信をお願いいたします。



一般社団法人  
名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会  
NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS Art & Design Alumni Association

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65 tel&fax: 0568-25-4190  
mail: nua.ad.aa@gmail.com ホームページ http://nuaad.aa.com  
https://www.facebook.com/nua.ad.aa

### 記事・その他のお問い合わせは…

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65

名古屋芸術大学西キャンパス内

(一社)美術・デザイン同窓会事務局 宛  
tel/fax. 0568-25-4190(直通)

同窓会HPは大学のリンクからもアクセスできます。→ <http://www.nua.ac.jp/>  
メール＝[nua.ad.aa@gmail.com](mailto:nua.ad.aa@gmail.com)

◆現在同窓会では、月一度の会議、年一度の総会・懇親会などの活動に積極的に参加・お手伝いくださる同窓生を募集いたしております。お気軽にお問い合わせください。

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--

同窓会役員紹介 2024年9月現在



当時は寺田栄次郎先生がキャンパスの作り方、地塗りの仕方とかを教えてくれて、その時のマニュアルが今でも僕のバイブルです。料理と一緒に手作りの違いを実感したので、学生にも「面倒だけど一度この味を覚えたらもう普通のキャンパスには戻れないから」って教えてます。そういう伝統がこれからも引き継がれると良いですよ。

## 名古屋芸大での出会い

—どういう経緯でお二人はご結婚まで…？

初めて喋ったのは多分「旅行とかお好きですか？」って、彼女が聞いてきたんですよ。

明里さん：水溜りに足を突っ込んでバsshャバsshャやってたんで、これは自然と戯れるタイプかなと思って。

それで「いや、嫌いです」って答えたらスッと離れて行っちゃった。そこは「なんで？」って聞くとところだろうって(笑)。当時としては『旅行という非日常が無ければ感動出来ないような、柔な神経では画家にはなれない!』、というような事を言いたかったと思うんですが、日常の中で驚…って言いかけたら「あ、そうですか」って。

—そこで気になる存在に？

(お二人同時に) 「いや、全然。」(一同笑い)

4年生になった辺りから同期みんな仲良しになって、卒業後、僕らが「P」って呼んでたピザハット(当時はイトインも可能)があって、とにかくピザが好きで「P行く？」って感じで。仕事後に皆でピザ食べて飲んで終電で走る→時々乗り遅れる→彼女のお母さんが怒る。僕が「結婚したら怒らないんですか？」って聞いたら「結婚したらいい」って言うから「じゃあ結婚しようか」と。飲みに行くのが一番大事理由だったんです。

明里さん：多分イケダギャラリーで初めて展覧会をするって絵で凄く悩んでた時期で、誰かと飲みたかったんでしょうね。殆ど一日置きに行くので、もう常連になっていて。



《中断された眠り》1985年  
油性塗料、クレヨン、土・キャンヴァス  
224.8×275.9cm 名古屋市美術館寄託



お二人で当時の資料を見ながら思い出を語る  
一つまり「Pに行こう」=会いたいっていう……

そういう話にしたいんだね(笑)。でも絵の話が出来る人ってそんなにいないので。結構自分の描き方は精神的にキツイんですよ。即興でもっていくので、一度座礁するとホントに壁に頭をぶつけてアドレナリン出して、なんとかその日の内に「今日はこれでよし」っていう状態にして帰る。

感情がコントロールできないっていうのはずっとあって、もう彼女(明里さん)じゃなかったらとくに離婚ですね。でかいことやった後に必ず落ち込むんですよ。心の中では「俺、凄いだろ」って。で、こうやって描いたものがあまり褒めて貰えないのがだんだん嫌になってきて、描いた後に全然だめじゃんと凹む。周りの人は大変だよ。でも、そういう生き物だから描いていけるんだって開き直りもあって。

—作品で行き詰っていったのは、アメリカ～ヨーロッパ滞在の頃でしょうか

そうですね。凄く楽しかったので落ち込んでたのか？ってくらい楽しそうな写真ばかりだけど。当時は本当にぼろい所に泊まって次から次へと珍道中だったね。あまりに貧乏そうに見えたのか電車の連結部で二人でサンドイッチを分け合って食べてたら、食堂車の人がバナナとかリンゴとか果物持ってきて「食べろ」って言われて。で、食べてる俺達の方を見て「青春だよな!」って(笑)。

でも日本に帰ってくると作品を作ろうと思うだけで登校拒否児童のようにお腹痛くなるような症状が出るし、画廊辞めてからは周りから散々言われるし。絵画にどう向かい合っているのか分からなくなってた時に、とりあえず線の勉強をしようという気持ちになって。直接絵を描かないからそれほ



《銭湯》1997年 油彩、木炭・キャンヴァス 227.5×227.5cm

どストレスも感じなくて、リハビリみたいな感じで。そこから中国の書に興味が移って、派生的にじゃあ日本の雪舟はどういう立場なんだろうとか、色々知るべきことが多くなったのが、楽しかったですね。知っただけでは作品にはならないので、自分の中に取り込む為に100本ノックと称して1日100枚ドローイングを、しかも考えて描く。「これは何を考えてこうなったか」をイメージしてやると頑張っても20枚いかないんですけど、自分の中で意味を考えながらトレーニングできたのは、良い時期だったかな。



摩天楼をバックに撮影。1989年ニューヨークにて

### 大学の教員として

90年代の頭から2000年近くまで名芸で非常勤をやらせてもらって、その後大崎先生と須田先生が呼んで下さって常勤になりました。学生見てると心を病む人がすごく多いんで、まずメンタルを。ムツゴロウさん(故 畑正憲の愛称・動物研究家)のように少しづつ距離を詰めて、最後に「ヨーシヨシヨシ」って出来るようになったら、そこから絵の話をするんです。

自分達の頃は就職なんてなくても何とかなるだろうって空気があったからね。今は不況だし、奨学金と言う名の借金を背負わされるし、だからなんとか学生の内に勲章じゃないけど賞とか獲って親を納得させられる要素で次のステップに繋げたいなど。

講義でもよく言うけど、絵画が残りうる理由っていうのは、やっぱり個人に集約されていくんじゃないかなと。AIも出てきた今、じゃあ絵画に何の意味があるのかっていうと、人間同士がある種の緊張感の中で起こすドラマ、そこに込めた人類の歴史とか経験とかが乗ってくる面白さですよ。描写だけやってるとそれは見えてこなくて、だからそれが一番出るのは線だよなってさっきの話に繋がる



名古屋市美術館地下展示室＝予備校生時代から現在までのドローイングやメモが所狭しと並べられた

んですけど、やっぱり良い画家の線は見ただけでたまらんですよ(笑)。

音楽も同じで、サクスをブッて吹いた瞬間で「チャーリーパーカー!」「これはコルトレーン!」って分かる感じが芸術の魅力だと思うんです。そこに特化していきたい。だからまあ、異常なくらいでちょうど良いんだよ。

自分はアスペルガーとか発達障害が明らかにある人間だなという話をしてたら、みんなが「皆そうだから」って(笑)。みんなきっと心のグラフを作ったら歪になってる。だから、名芸はそういうところの巣窟だよ。社会の保健室みたいな。

#### ジャズの即興と未完の絵画

自宅ではほぼ聴かないんですけど、絵を描くときは8割方ジャズをかけてます。本当は音楽家になりたかったくらい好きなんですけど、いかんせん親譲りの凄い音痴で。即興は自分の中で王道中の王道なんですけど、ある段階から即興もどこかワンパターンなフレーズや展開になっちゃうところを感じてしまって、そうするとクラシックのようなブロックを積み上げる構造を持ちつつ、尚且つ場面場面で即興的要素が入るっていうのが割と最近の好みです。



絵画、音楽…芸術全般に博識、かつ軽妙な語りで引き込まれる

ヘルベルト・ケーゲルという指揮者がいて、東ドイツ崩壊の直後くらいに自殺したんですけど、その死の直前に日本のサントリーホール(1989年10月18日)でベートーヴェンの『運命』の指揮をしてて、それが鬼気迫る演奏で。そういうのを見ると「最後の曲が一番良かった」っていうのが、まだもうちょっと先にしときますけど、理想なのかな。

例えばセザンヌの絵は、雨が降ってきたからか途中でやめたような作品が結構あると思うと、これ何年描いてるんだと思うくらいしつこく描いた作



《田圃の宴会》2008年  
油彩、テンペラ・キャンヴァス 145.5×112.1cm

品もあって、それらが並ぶと「くどい、くどい、あっさり」って丁度良いコース料理になる。自分はどちらかというと「どこまでやれるか」を前提としていたので重苦しい画面になりがちで。アメリカで一番自分がコンプレックスを感じたのはそこで、バスキアとかガガッと描いて止めてOKって感じになるのが、作品として見たら面白いんだけど、自分が描いた時にここで止めるっていうのができなくて。ただ、締切が来ると「もうこれ以上描けない」ってなるので、例えば画廊でやる時に締切のせいにして「もっと描きたいのにな」っていう形で発表したら「それが一番良いね」とか言われて。天野一夫(美術評論家)さんは毎回そう言うんですよ。だから現代美術方面で見ると、やっぱりやりすぎてるのはちょっとダサイっていうことがあるのかもしれない。でも意識的にやるのはもっとダサイ気もするので、そこが難しい。

で、一番本当の「未完成」は、そこで死んだ、なんですよね。この間ガウディ展を観に行って、僕は凄くガウディの事を気に入ってしまったんですよ。元々そんなに好きじゃなくて、「あんな派手な色、嫌い」と言ってたのに。サグラダ・ファミリアの『受難のファサード』は彼が晩年一番力を入れたものなんですけど、これが凄くて。ガウディは巨額の寄付金が来た時に(その寄付金があればとりあえず完成させられる位の金額だった)、これをファサードに全ツコミしたんです。彼はファサードに圧倒的な自分の痕跡を残すことで、次の世代の人に「このレベルでやれ」と伝わるはずだから、完成させるよりもこのファサードに全てをかけた。だからあれを見た時は、彼という人間がもう圧倒的な芸術家としてそこに居ると感じて鳥肌が立ちました。その辺りから「未完成」、いいかもと思って。

でも究極の未完成は、死によってだから、一作しか作れないので、生きながらえながら、どうにかして、「未完成」っていうのを自分の中で探ってみたいんです。一通り勉強してきて、自分なりの描き方みたいのが変わりながらも出来てきた時に、見極めというか判断基準が出来てくるといいなど。

まあ画家は60過ぎてからっていうことですね。今後ともよろしく願います。なんだか締めちゃいましたね(笑)。



《化現の社の杉》2020年  
油彩、木炭・キャンヴァス 145.5×112.0cm



アトリエ見学・インタビューの後、ご自宅のお庭でお二人を撮影。写真左が旧姓向井明里(めいり)さん:11期美術学部絵画科洋画専攻。

**吉本作次=よしもとさくじ略歴**  
1959年岐阜県生まれ  
1984年名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業  
1986年渡米、ニューヨークに5ヶ月間滞在、制作  
1989年ニューヨークにて個展  
1995年名古屋文化振興事業新進芸術家海外研修の助成を受け再びニューヨークへ  
1996年平成8年度文化庁インターシップ研修生として助成を受ける  
1997年名古屋市芸術奨励賞受賞  
2020年令和元年度愛知県芸術文化選奨(文化賞/絵画)受賞

現在、名古屋芸術大学大学院美術研究科美術専攻絵画研究(洋画)、芸術学部芸術学科美術領域洋画コース教授

●主な個展  
1984年 セキギャラリー、名古屋  
1985年 アキライケダギャラリー、名古屋、'87年東京  
1989年 ジャドソンウエアハウス、ニューヨーク  
2001年 コオジオギャラリー、名古屋  
2002年 ギャラリーOH、一宮  
2005年 三重県立美術館、津、三重  
2008～24年 ケンジタキギャラリー 名古屋／東京  
2024年「吉本作次 絵画の道行き」名古屋市美術館

●主なグループ展  
1983年「五つの発熱'83」三重県立美術館県民ギャラリー  
1985年「五つの発熱'85 in 横浜」神奈川県民ホール  
1986年「アートインフロント'86-世紀末芸術の最前線」スパイラルガーデン 東京「第6回 ハラアニュアル」原美術館、東京  
1987年「絵画1977-1987」国立国際美術館、大阪  
1989年「現代絵画の展望-祝福された絵画(第19回現代日本美術展・企画部門)」東京都美術館(京都市美術館、高松市美術館、船橋・西武美術館、北九州市立美術館、広島市現代美術館を巡回)  
1996年「VOCA展'96」上野の森美術館、東京  
1997年「眼差しのゆくえ-現代美術のポジション1997」名古屋市美術館  
2019年「アイチアートクロニクル 1919-2019」愛知県美術館  
2007年「City\_net Asia 2007」ソウル市美術館  
2008年「Masked Portrait」マリアンヌ・ボースキーギャラリー、ニューヨーク  
2009年「ARTのメリーゴーランド」岐阜県美術館  
2012年「魔術／美術 幻視の技術と内なる異界」愛知県美術館  
2020年「化現の光」アートラボあいち



自身のアトリエにて。制作途中／未完の作品の前で撮影  
アトリエでの撮影＝小林哲也(フォトックス・デザイン)



## 同窓生の今：飲食とアート＆デザイン

昨今、食をテーマにしたアートやデザインの展覧会・イベントに触れる機会が増えてきました。いうまでもなく、飲食にまつわる全てがデザインと密接に関わっていますし、まるで絵画かオブジェさながら、芸術品のような仕上がりのお料理がSNSを賑わせています。

さて、芸大美大を卒業し、料理人や飲食店経営を選択する方々が多くいらっしゃいます。それぞれに理由はあれど、飲食業を選択する上で、これまでの美術、デザインという学びは、それぞれの現場にどのように影響しているのでしょうか？アートやデザイン独自の視点が、料理や店舗経営について生かされているのでしょうか？

飲食に携わる5店舗を経営される同窓生に話を伺いながら、様々な可能性を探っていきます。

### part 1 対談

## [koha & eat more] 安田(旧姓:篠田)有里さん× [アオイク]カフェ 御子柴哲郎さん 24期絵画科日本画専攻 25期デザイン科メタルコース

——お二人とも卒業後は研究生を？

安田有里さん(以下、安田) 研究生をやって、なんか辛くなってもういいかって。みこっちとはヒロミ部(旅行部)繋がりで食堂で会うとよく挨拶してた。

御子柴哲郎さん(以下、御子柴) 有里ちゃんは真面目だね。俺なんて、やったー！もう1年遊べる！って。俺は研究生の後、東京に戻って俳優してた。テレビと映画に出てた。と言っても酷い時は年収3千円。月収じゃないんだよ(笑)。8年程事務所に所属して、それだけでは食べていけないからバイトするじゃん。それで飲食に。芸能は良い思い出すって書いていいよ(笑)。



お二人ともリラックスした雰囲気での撮影。

——『アオイク]カフェ』に込められた言葉

御子柴 俳優やってる時にプロデューサーさんから『『あおいくま』って言葉をあげるから頑張っ』と言われたのが心に残ってました。意味は焦らず、奢らず、怒らず、腐らず、負けない。最後負けない事が大事だと。それで屋号はアオイクの後に『\_]スペースがあって、これを「ま」と読んで「アオイク\_」=あおいくま」と名付けました。

——2店舗ともにSNSで大反響ですね

御子柴 自分はインスタはやってないけど、それが逆に同業の人から「このSNSの時代に一切やらずお客さんが来るのは凄い」って話題で、今更やれな

御子柴 俺は今も昔も飲食をやりたい訳じゃ無いんです。こういう場を作りたかった。誰でも来て遊べて、好きなように過ごせて。でも只のフリースペースじゃ誰も来ないしお金も要る。そのツールとしての飲食店。だからまず箱がある事が前提でした。

安田 おこがましいけど私が作ったり発信したモノが、誰かに少しでも影響があったら、人生楽しいよね。作品制作も表現で誰かの心を動かしたいって事で、結局同じなのかな。

御子柴 そうだね。俺も形が変わってるだけで、学生の頃と同じでワイワイやりたいんだよ。今も形の違うクリエイティブな事をやってるんだと思います。

安田 クリエイティブな事って、ビジョンを形にする事だと思うんだけど、その模索する行為が日々の制作で養われてるから、芸大卒は皆出来るよね。興味を持った事に突き進む探究心、エネルギーが恐らく普通の人よりある。普通の人ってなんだって話だけど。



有里ちゃん、みこっち。楽しい店に笑い声が絶えない

——今後の展望は？

安田 本当は朝とか夜もやりたい。でもそれには人を雇わなきゃいけないって。

御子柴 飲食に限らずお店、箱モノは24時間365日動かし続けるのが一番の理想だけど、人や商材を考えると売上の殆どが人件費になっちゃう。俺はもっと外に出たいの。お店の経営も嫌いじゃないけど、やっぱり何かを作るのが好きだから。このお店みたいな店舗のセルフリノベーションを請け負ったり古道具を再利用した家具作り、そんな事も今後仕事になっていったらいいな。



皆が集まれるスペース作りが楽しいと御子柴さん

安田 今はアウトプットばかりで、もっと新しい事をインプットして企画したいんだけど、店舗運営だけで手一杯。でもスタッフを育てるのも自分の仕事だからね。今日こうして、同じ志を持った同志で話せるのを凄く楽しみにしてたんです。良い時間でしたね。

御子柴 ジレンマになってた事が共感し合えただけでも凄く良い時間だったね。本当はこういう会話を普段やりたい。畏ったミーティングなんて本当は必要ないんだよ。やれと言われてやるんじゃなくて「私はこのお店をこうしたい」って当事者になって欲しいんだよ。

安田 皆にそう思って貰える為に切っ掛けを散り

ばめてる。読んでる本を置いてみたり、スタッフに「こうやりたいんだよ」って少し踏み込んだ話をしてみると「実は夜営業したいんです」とかぼろっと引き出せたりする。

御子柴 まだまだ途上だよ。

安田 無鉄砲だけど基本なんとかかなと思ってて、その生きる術みたいなものが養われたよね。あの環境を与えられた事は、自分が親になった今、本当に感謝してます。

### ●アオイク]カフェ



今回の取材場所としてご提供いただいたアオイク カフェ 幹線道路から離れた静かな住宅街の中にある。



陶芸家として活躍中の29期セラミック卒業の清水由里さんとご結婚。4歳の長女と3人で自らリノベに携わった古民家住まい。カフェで使用する器も彼女の作品。(Instagram▶@y\_ppe)

〒465-0056 愛知県名古屋市名東区野間町 5 3  
TEL=052-618-6970  
営業時間=11:30~ web▶aoikucafe.com  
定休日=水曜木曜(不定期休やイベント日もありますのでHP・電話でお問い合わせください)

### ●koha & eat more



安田さんが営む店舗。豊田市内ののどかな風景に佇む。



〒470-0352 愛知県豊田市篠原町五反田 8  
定休日=木曜、日曜定休(+追加休業あり)  
営業時間=11時~15時(商品無くなり次第終了)  
Instagram▶@koha0719  
商品・不定休情報やお問い合わせなど全てインスタグラムよりお願いいたします。



### part2

## [どてやま] 三津山 豪さん 24期デザイン科造形実験コース

元々はVD専攻で、3年から造形実験に進みましたが、当時は自分が何をしたいのかよく分からず、課題に対してもなんだかの外れな事をやってた気がします。茂登山先生は厳しくも優しい方で、そんな僕を何とか無事(?)卒業まで導いてくださり、今でも先生の優しい笑顔と真顔になった時の迫力は忘れられません。名芸での4年間はそうした先生方とお会いできて、それまで知らなかった世界を知る事が出来て、今でも付き合いのある大事な友人達ができた事が一番の財産になっています。

料理の世界へ足を踏み入れたきっかけを辿ると、高校生の時にアルバイトした親戚のレストランでしょうか。在学中の焼肉店のアルバイトや卒業後フリーターとして働いた様々な飲食の現場も肌に合っているというか、とにかく楽しくやりがいがあって自然と本格的に進みたいと思うようになり、東京と名古屋のレストランで5年間働いた後、箱根のレストランで10年間働きました。

イタリアンを選んだのは在学中、下宿にあった有名シェフのレシピ本を見て折々に作っていた事や、僕の好きな村上春樹さんの小説で主人公がパスタをパパッと作っていて「カッコいい…」と思った事などですかね。きっかけは些細な事ですが大切なのは続ける事でした。時には本当に逃げ出したくなるような大変な事もありましたが、学生の時にか自分に言い訳してモヤモヤしていたことを繰り返したくなくて、何とか乗り越えてこられました。

昨年オープンしたばかりで、店名の「どてやま」はどてやきの「どて」と名字の「三津山」をくっつけて出来たもので、シンプルですが割と気に入っています。三島の町は魅力的な個人店が多く、箱根にいた時に休日によく来ていて、自分もその中でやっていけたらと思い、今の場所を選びました。



●どてやま  
〒411-0855 静岡県三島市本町1-27  
山口ビル1階東  
TEL=055-960-7164 定休日=月、火  
Instagram▶@dote\_yama  
web▶mishima.myp1.net  
商品・不定休情報やお問い合わせなど全てインスタグラムをご確認ください

居酒屋を選んだ理由は、元々居酒屋が大好きだった事と料理を続けるうちに色んな事がやりたくなくてきて、居酒屋ならおつまみでイタリアン的なものを出しても成立するかなと。実際「べのペペロンチーノ」はお客様に好評です。イタリアンと和食は食材の扱い方や調理法が相互に応用できる事も大きな要因ですね。

看板ロゴも自分でデザインしました。お店でやりたい事を表現しようとすると形は自然と出てきて、造実の課題の時「コンセプトは？」と必ず聞かれて、当時はそれに苦勞していて…コンセプトを決める為のコンセプトを考えるという変なスパイラルに嵌っていましたが、そもそもやりたい/表現したい事があれば、それがそのままコンセプトになるのだと卒業して28年経って実感しました(笑)。

いち押しメニューの「静岡おでん」は、出身の静岡県中部特有で東部の三島ではちょっと苦手と言われる事もありますが、「中々こっちでは食べられないから」と逆に喜んで頂ける事もあり、当初の予想よりは受け入れられてるのかな。もう一つの看板メニュー「どてやき」は今回出店するきっかけにもなった山梨県甲府市にある名店の影響で始めたものです。そのお店では直接学ぶ事ができず、独自に研究を重ね、なんとか納得がいくものになったかなと思います。

シンプルに言えばコンセプトを決めてプロジェクトを進める＝「造実」だと今の自分は思っていて、飲食店経営や調理という作業はまさにその考えに通じていて、色々と回り道もしましたが、学生の時にうまく表現できなかった事と今やりたい事が良い形で融合して「どてやま」になっていると思います。このお店が今後、どう変化し成長していくのか自分でも楽しみです。



看板メニューである「静岡おでん」



店名にもなっているおすすめメニューの「どて焼」





## part3

### パンとコーヒーの店 [はじまりのうた]

加藤 千志さん 21期絵画科洋画専攻  
加藤(旧姓:松岡)律子さん

24期絵画科洋画専攻

店名「はじまり」はドキドキワクワクを感じさせるもの、「うた」は気分が高揚した時とか幸せな時に出てくるものだと思うので、そのような気持ちになっていただける空間を作りたいという思いを込めて「はじまりのうた」という店名にしました。

店のロゴは妻が描いています。妻はずっとカエルをテーマにしている、僕がどてつと寝てるところがカエルに似てるねってことで。じゃあそれにしようと描いたものが今のロゴになっています。

教員を退職してお店を立ち上げました。昔からカフェをやりたいと思っていました。妻がパンを独学でやっていた時期に、自分もせっかくだからとコーヒースクールに通ったら夢中になってしまっ。お互いコーヒーとパンをやりたいというのが噛み合っ、やろうかとなりました。

パンにはこだわりの自家製甘酒を配合してます。米麹と炊き立てのご飯と水を入れて6時間発酵させたものを食パンや菓子パン生地に使用しています。柔らかな甘さと小麦粉のふわもち感が幸せな気持ちにさせてくれます。ベーコンエビなどのハード系パン生地もこだわり、何度か粉を変えたり配合を変えましたが、やっぱり好きな粉があってそれに決めました。

「こうしたい」と思い描いていたのを、具体的に形に残していくのは、美術と似たところがあって、形をしっかりと取って、そこに色付けし、どう空間を演出していくか考える工程と似ています。

店舗の2階ではデッサン教室もあります。岐阜には加納高校の美術科っていうのがあって、せっかく中学校の教員をやったので、それを活かして中学生対象で美術科志望の子たちに教えたいなと思っていました。ただ、今は美大を受けたいという高校生になった教え子がいるので、指導しています。



元々は居酒屋だったお店の前にて撮影。店内カウンター上の和風な屋根もその名残だ。

教員を29年やってたんで、この店は30年はやり続けたいですね。今後の展開はこども110番や下校時の見守り隊などの、地域に根ざした店になっていきたいと思っています。

あとはみなさんが楽しめるような、様々なイベントを考えています。これまでも、古いイベントや音楽ライブ、「夜カフェ」と題して、店舗はないけどお菓子作りをやっている方にスイーツをお願いして、僕のコーヒーとコラボしたりと。そういう人たちにとっての「はじまりのうた」、ここからはじまるっていうような店作りをやっていけたらいいですね。



#### ●はじまりのうた

〒411-0855 岐阜市岩崎3丁目5-4

定休日＝月火水

Instagram▶@hajimarinouta.cafe 商品・不定休情報やお問い合わせ等全てをInstagramをご確認ください



## part4

### [6 six] (シス)

小杉(旧姓 山口)妙さん 28 期絵画科洋画専攻

レストランのテラスにて。遠くに古宇利大橋が見える

ご主人でオーナーシェフの小杉宏之さんと、共に営むフレンチ・イノベーティブ・レストランの「6 six (シス)」。Gault & Millau 2022年版(フランス発祥のレストランガイド)から、3年連続で3トック獲得。Japan Times Destination Restaurants 2023 (現存では日本最古の英字新聞社)＝日本人が選ぶ、世界の人々のための、日本のレストランリストとして選ばれるなど、大注目のお店となりました。

——おめでとうございます。ご自身のお店が、このように評価されるのは大変嬉しいことです。

本当にありがたいことです。おかげで、主人もすごく忙しくしてもらっていて、全日本・食学会にも参加しています。先ほどの「Destination Restaurants」に選ばれたことで、いろいろな料理人の方とも繋がる機会が増え、会議が沖縄で開かれるとなれば、独自の食材や食文化をもっと広めようと、皆さんを沖縄各所へ案内したり忙しいですね。本人はナイチャー(三重県出身)なのに、それにまあまあ年齢になっているけど、この辺では一番動けるおじいちゃんになっている気がする(笑)。

2018年に子育てを期に私の故郷でもある沖縄に移住しました。那覇から車で2時間くらいに位置する古宇利島に、新しいお店「6six」をオープンしたのですが、当初は不安になるくらいの売り上げでした。ただ良くも悪くもちょうどコロナの時期と重なって、普段なら海外旅行をして、レストランで食事するのが趣味という方々が、どこにも行けないから国内で、じゃあ沖縄に行こうと。それで、SNSや飲食店紹介サイトなどのブームにのって、ブロガーやインフルエンサーの方々も多くご来店いただいたこともあり、注目していただけたようです。東アジアからのゲストも増えました。

#### 衝撃的な料理と出会い

——学生の時からお店でお手伝いされてましたね

主人とは、名芸東キャンパス近くで営業していた「シェポーシェ shef poshe」という小さなお店で、学生時代の出会いが最初でした。学生の頃、私は沢山の同級生たちを良く自宅に招いて手料理をふるまっていたんですね。そうしたら、ある時から来なくなりました。あれ、どうしたんだろう？って聞いてみたら、その主人のお店で食事してなんです！私の中では、いつも友人たちを賄ってあげて、献立も考えて好き嫌いを克服できるように試行錯誤したり、まるで子どもの親のような気分だったんだと思

うんですけどね。で、どこのどいつが私の子ども達を手懐けてるんだ！くらいのパチパチとした気持ちでお店に乗り込んでいったんです。そしたら、お料理食べてみたら、もう悔しいけど、えっすごく美味しい、って。自ら入り浸りになってしまっ(笑)。

もう次の日から、友人と一緒にお腹いっぱいになるまでご飯を食べて、自分もお店を手伝い始めました。私自身料理することが好きなので、主人の作るものに興味津々でした。知れば知るほど奥深くて、限られた調味料で、いくつもソースを作って見せてくれて、自分のキッチンにもいくつも買ってきた調味料が一通りあるんですけど、比べ物にならないくらい美味しく、驚くことばかりでしたね。



北名古屋時代のお店「創喜楽食 シェ・ポーシェ」

#### お互いの問題を見つめて

知り合った当初、私は本当にまだ若くて、個人的に色々問題を抱えて、うまく食事もできずに激瘦せしてしまっんです。そんな時に主人と、彼の料理に出会って「美味しい！私まだ大丈夫だ、美味しい料理を美味いって感じられる」と。素直にまた食べたいって思えるってなんて素敵なことなんだろうと、彼に救われたんですよね。

卒業制作で《マブヤーマブヤーココニル》という木版画の作品があります。その頃は『マブヤ(＝沖縄で魂の意味)』が私の中に一つもなくて、ずっと探し続けている、そんな気分でした。



《マブヤーマブヤーココニル》2000年 100×100cm 木版



個性的な沖縄を感じるお料理。ハリセンボンにエビパンが刺さる。

それでお付き合いしていくうちに、これまで料理の様々な修行をしてきて、苦労もした。そして最初は洋風食堂みたいなコンセプトでオムライスやチャーハンとか出してたんですが、よくよく聞いたら本当はフレンチがやりたい、って話してくれて。これだけ美味しいものが作れるって絶対すごい人だと確信して、この食堂だけで終わっては行けないと思い、応援していくことに決めました。主人も色々悩みがあったんですが、悩む度に「あなたは特別な人だよ、こんな美味しいもの作れる人他に居ないよ」って言ったら私が女神に見えたらいい(笑)。

#### 物語のはじまり

——そこから二人で新しいお店を出そうと？

しばらくは同じ場所で続けていました。フレンチのコースを出すお店に内容を少しずつ変えていったんです。徐々にお客様も増えていった頃に、新しいお店を出して欲しいとファンの方からオファーが来ました。とても良い方でしたし、もう乗り気で、設計まで進んでいたんですけど、その方の都合で、ギリギリのところまでダメになってしまっ。でも、もう新しいお店を出す気持ちは抑えられず、別の場所を探して、決まったのが名古屋市千種区にあるテナントスペースでした。

途中から店名を「フランス料理シェ小杉」、その後「イレテデュフワ (Il etait une fois)」(＝フランス語で「むかしむかし…」という物語の最初のフレーズ)に改名しました。

——名古屋のお店では、様々な演出が話題でした。

その移転先が窓が殆どなくて、店内がすごく暗かったんです。だから窓が欲しいなと思って、窓の扉が開いていて、そこから森が広がっているような風景を、壁に直接描きました。入り口の壁には、羊がペンを取っている絵を描いたのですが、お店の執事＝羊……という意味で描いたんです。お客様のポートフォリオを作る想定で、机の上から紙が店の壁を縦横無尽に続いていく絵になっています。そのお店が今も続いていれば、そこにお客様とのエピソードを書き込んでいく予定でした。



名古屋時代の「イレテデュフワ (Il etait une fois)」の壁に、妙さんが描いた執事(＝羊)の絵【写真＝個人提供】



名古屋時代からのお料理。カリフラワーを1時間かけて焼いていく。

#### ●6 six

〒905-0406 沖縄県国頭郡今帰仁村古宇利499-1

TEL＝0980-56-3733 不定休

Web▶six-kouri.com/ Instagram▶@sixkouri

予約は omakase.in からのみになります。最新情報・お問い合わせ等は、HP・Instagramをご確認ください

#### 特別な時間と芸術的なおもてなし

今はSNSもすごく、記念だからスマートフォンでお料理を撮影するのはダメとは言わないんですけど、大好きな人とテーブルを囲んで、存分に食事を楽しめるのかなと。それでイレテデュフワのテーブルのセッティングでは、本に見立てたナブキンや木箱が置かれていて、これから私たちの作る物語の中に没入してくださいね、そんな想いを込めて、よそ見をする暇なんてないくらい、完璧なまでに楽しいテーブルに仕上がったんです。

今は子育てが忙しくて、本当にごくたまにお店に出るくらいですが、昔から続けている「ナンバーリングクッキー(来店者数をカウント)」というのがあって、それは私がずっと担当しています。いつから始めたのか名古屋のお店の頃聞かれたことがあるんですが、「なんでもない日から始めました。」って答えたら、「素敵！恋愛みたいですね」って(笑)。私が続けている世界で一つだけのクッキーです。そのなんでもない時間、ふとした瞬間が特別な記念日になるように、心を込めておもてなししています。

#### 3年先を走る

ありがたいことに今の所、事業計画が順調に進んでいて、自宅兼の新しいお店を古宇利島内に建設できそうなんです。色々な人脈もできたことで、コンサルタントのお声がけをいただいたり、海外での出店も視野に入れています。

もうお店はここが最後で、人生の残りは子育てかな、と思っていましたがそうでもなかったみたいです。主人はいつも「周囲より3年くらいは先を走ってる」と言ってますが、新しいお店も唯一無二の場所にしたいと語っています。子育てが落ち着いたら、また二人でお店に立ってるかもしれませんね。



ご家族の記念写真